

2025年度 通信制課程学校評価

【教育目的】

教育基本法、学校教育法及び私立学校法に従い、特に仏教精神に基づく教育を行い、人格の陶冶を図る。

【スクールミッション】

- ・ 仏教の世界観、人生観を根幹とし、合掌の心をもって、校訓である「和顔愛語」を実践し、社会に貢献できる生徒を育成する。
- ・ 伊万里を拠点とする学びの場として、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、「自立する力」を育成する。

【評価基準】

A：達成できている B：概ね達成できている C：あまり達成できていない D：達成できていない				
評価項目	具体的評価項目	評価	成果と課題	学校関係者評価
学習指導	スクーリングは、生徒の学習意欲を高めるきっかけとなっている。	B	スクーリングが生徒の学習意欲向上に一定の効果をもたらしている。ただ、生徒によっては意欲向上につながりにくいケースもあり、個別支援の強化を図っていかなければならない。	B
	レポートや試験が適切に運用されている。	A	提出・評価の流れを明確にし、学習状況を把握しやすい仕組みを整えることができた。ただ、一部の生徒にとっては負担感が大きく、学習ベースの調整支援が必要である。	A
生徒指導	生徒が安心して学べる教育環境が整備されている。	A	校内の雰囲気落ち着いており、生徒が安心して過ごせる環境が維持されている。個別スペースやICT環境等、生徒の多様なニーズに応じた環境整備のさらなる充実が必要である。	A
	困った時や悩んだ時に、気軽に相談できる職員がいる。	A	生徒が相談しやすい雰囲気づくりができているが、相談体制の周知が十分でない面があった。生徒の個別課題に対応する専門性のさらなる向上が必要である。	B
	教職員が丁寧かつ迅速に、生徒や保護者からの問い合わせや相談に対応している。	A	連絡へのレスポンスを早く、丁寧な対応を心がけているが、時期によっては対応が集中し、迅速さが保てない場合があった。次年度は、情報共有の仕組みをさらに整え、対応の質を均一化させていきたい。	A
進路指導	生徒が将来の進路や興味・関心について考えるきっかけや支援が提供されている。	B	進路ガイダンスや個別相談を通じて、生徒が将来を考える機会を確保することができた。ただ、個々の状況に応じた支援に十分でない面があり、相談機会の確保について課題が残った。支援内容の幅や深さ、個に応じた指導について、さらに充実させる必要がある。	B
学校運営	オープンスクールや個別相談、学校案内等を通じて、適切な広報活動を行っている。	A	学校の特色が分かりやすく伝わる広報活動が実施できた。SNSや動画など、より多様な広報手段の活用が今後の課題となっている。また、地域への発信力をさらに高める工夫が必要である。	A
	メールや各種通信等により、定期的な情報発信を行っている。	A	学校だよりや学級通信、はなまる連絡帳等を通して、必要な情報発信を確実に行うことができた。保護者からも高評価を得ている。確実な情報発信を行うためにもホームページの活用等、さらなる情報整理・配信方法の改善が必要である。	A
	面談や相談活動等を通じて、保護者との連携・信頼関係の構築に努めている。	A	年2回の三者面談をはじめ、生徒の状況に応じた面談及び情報の共有を行った。今後は多忙な保護者への柔軟な対応の拡充をはじめ、情報共有の頻度や方法について、さらなる工夫が必要である。	A
	通信制課程への入学に満足し、前向きに学習へ取り組む姿勢が育まれている。	A	ほとんどの生徒と保護者が「本校への入学と、自分のペースで学べる環境に満足している」と回答していた。今後は、モチベーション維持が難しい生徒への継続的なフォローと、学習習慣の定着を支援する仕組みの強化が必要である。	A
	校舎の安全性や衛生管理が適切に行われている。	A	校舎の安全点検や衛生管理を計画的に実施しており、安心して利用できる環境を保つことができた。玄関や通路の改善や設備更新に継続的な投資が必要である。	A